



横浜市立恩田小学校 学校だより 7月号

発行 令和元年6月28日



地域と共に育む

副校長 池上 太郎

6月の2週目から梅雨に入り約4週間が経ちました。「もうすぐ梅雨が明けるかな?」という声から「はやく夏休みにならないかな」という声に変わってきている様子が伺えます。また、今後は、暑い日が続くことを考えると体調管理もしっかりとしていかなければと感じます。学校でも小まめな水分補給や休憩を心がけるとともに、市から配布された熱中症計を活用しWBGT(暑さ指数)を意識した熱中症対策を継続して行っていきたいと思います。



さて、6月15日のスクールオープンデイには雨の中、多くの保護者、地域の方々にお越しいただき本当にありがとうございました。学校教育目標を具現化する各学年の



取り組みをご覧いただけただけではないかと思えます。また、『『まち』とともに歩む学校づくり懇話会』も同時に行われ恩田小学校の教育活動について理解していただき、これから必要なことは何か等、貴重なご意見を伺うことができました。本校の教育目標は「自ら学びともに豊かな生活を創り出す子どもの育成」(おもいやり すすんで行動 だれとでも協力 恩田の子)です。目指す子ども像の構築には、

学校の取組だけではなく、保護者や地域の方々との連携・協働が必要になってきます。昨年も多くの方にご協力いただき子どもたちの自ら学ぶ環境、実体験を通じた学習を創っていただきました。今年度はその協力体制をより発展的にするために学校・地域コーディネーターを配置することを進めています。平成30年度までで横浜市内の小中学校に267校配置されていて、令和元年度に新規配置校として47校が予定されています。学校・地域コーディネーターとは「地域と学校をつなぐ人・地域と学校の架け橋」という役割を担う人になります。学校で求める教育支援活動のねらいと、地域の方々の得意なことを結びつけたり、学校を支援するボランティアをまとめ、人数をふやしていったりします。恩田小学校では、4月当初募集している新入生の学習ボランティアさんや登下校の見守りを毎朝していただいているスクールキーパーさんの人数がまだまだ足りない状況があります。また、学習活動でも体験を通じた様々な分野における活動があったらいいなと思っけていてもなかなか実現できないものもあります。

地域の皆さん、保護者、民間企業、団体等の幅広い方々の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動を展開していければ良いと考えています。